

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

1 兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。 2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。 3 そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。 4 わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“靈”と力の証明によるものでした。 5 それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。

Iコリント2：1－5

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。

マタイによる福音書5：14

【説教要旨】

現代社会が大きく変化していると言い続けています。こういうときこそ歴史から学ぶことが大切です。近世は宗教改革によって始まりました。中世までの教会を中心として生きていた時代の構造がありました。ルターは、ウォルムスの国会で、「我ここに立つ」という一言が、中世を支えて構造を壊すことになります。ルターの「ここ」とは、「神の前」でしたが、時代は、「我」ということに重点が置かれていくようになりました。「我」が大きくなっていく、つまり人間が大きくなっていく、同時に人間が大きくなるために科学技術を手に入れて、産業革

命以降、科学技術を発展させてきました。ますます「我」が大きくなりました。近世は、「神の前」ということが徐々に払拭されていきました。

近世後の今を生きる私たちの時代は「我」がますます拡大され、神は天の岩戸に押し込められて、消えていきました。その中で人工知能に見られるように、神の全能を取り上げようとするスピードで技術革新をとげています。宗教にかわって、科学技術の発展が私たちの構造を支えているのです。「知恵にあふれた」世界が私たちの世界であり、「知恵」が私たちを支えているのがはっきりと見えるのが私たちの生きている日々です。人間至上主義です。

「多くのデータを手に入れるほど、そして、歴史をよく理解するほど、歴史は速く道筋を変え、私たちの知識は早く時代後れになる。何世紀も前には、人間の知識はゆっくりと増えたので、政治と経済ものんびりとしたペースで変化した。今日、私たちの知識は恐ろしい速さで増大しており、理論上は、私たちは世の中をますますよく理解できてしかるべきだ。ところが、それとは正反対のことが起こっている。新しく見つかった知識のせいで、経済も社会も政治も、前より早く変化する。私たちは何が起こっているのかを理解しようとして、知識の蓄積を加速させる。するとそれは、なおさら早く大きな変動につながるばかりだ。現在を理解し、未来を予想する私たちの能力は低下の一途をたどる。」（「ホモ・デウス」より）

人工知能、ナノテクノロジー、遺伝学にしても人間は「知恵にあふれた」世界を手にいれ、次の知識を手にいれるために走り続けなければならない、経済理論という知識を手にいれましたが、その経済が生き残るために無限に経済成長がなければ、止まるならすべてが粉々にくだけることを。しかし、走り続ける未来がどうなるか予想がつかないので。今日は通じていたことが明日は通じないという未来が予想できない不安が私たちに大きな不安となって知らないうちに覆っているのです。

パウロは、「わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく

不安でした。」と言います。それは、私たち、私たちの教会が置かれている状況です。そして、パウロは「わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。」と決意するのです。「わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず」というのです。「十字架につけられたキリスト以外」の知恵をもたないというのです。「十字架につけられたキリスト」とは、私たちの罪から救うために卑しい姿で十字架にかかりたもう神の子、イエス・キリストを通して示された神の愛です。

「わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト（神の愛）以外、何も知るまいと心に決めていたからです。」

知識の蓄積を加速させる。するとそれは、なおさら早く大きな変動につながるばかりだ。現在を理解し、未来を予想する私たちの能力は低下の一途をたどる不安を覚えている現代人に「不安を覚えることはない、あなたは愛されている」ということを伝えてきます。「不安を覚えることはない、あなたは愛されている」ということこそが神の力です。私たちが忘れてしまった、「我ここに立つ」、「ここ」、神の愛に立っていることに共に与ることをすすめるのです。ルターの本来の意味、「我ここに立つ」の回復です。

神の愛によって、塩味が付けられ、私たちは地の塩とされ、人々と共に生かされていくのです。神の愛によって世を照らす私たちは世の光です。不安を覚える人と共にこの世の知恵ではなく、また、この世の滅びゆく支配者たちの知恵でもありません。わたしたちが語るのは、隠されていた、神祕としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられた知恵、神の愛、神の力に与っていきましょう。マザー・テレサの祈りをもって結びます。

主よ、今日一日 、人は人であるという理由だけで、どんな人でも愛するために、私の心をお望みでしたら、今日、私の心をお貸しいたします。

牧師室の小窓からのぞいてみると



トランプ・アメリカ大統領が就任以来、世界秩序を力で抑え、アメリカ第一主義をかかげ、「ドンロー・ドクトリン」すなわち米国の利益のために資源管理や軍事介入を行う「絶対的支配」を実行した。こんな乱暴なことが続くなら、きっと悲劇は起きるだろう。

平和に暮らしていたチョロキ一族の地に金鉱が見つかると白人の目がくらみ、大統領令で強制移住をさせ、極寒の冬に 1600 キロ歩かされ、4人に1人が死んだ「涙の旅」となった。私は、この「涙の旅」を思い出した。

アメリカとはこういう国であったことを忘れてはいけないし、大統領制度の潜む危険性である。

貧しい人々にはふるまい与え（詩篇112：9）という世界を打ち消されつつあるのが現代社会であることを肝に銘じ、主の道を歩んでいく危機を乗り越えていきたい。



園長・瞑想？迷走記

インフルエンザB型が他人事でなく、幼稚園に流行りだした。そうなると幼稚園はてんわやんわで、学級、園閉鎖とつながっていく不安が拡がっていく。保育に大きな影響が出始める。

しかし、こういう時だから、私たちは、落ち着いて、賢く振舞わなければならぬと誰しも思っているがそれはなかなかいかないのがいつものことだ。しかし、心を支えてくれるのが神のみ言葉であり、祈りである。私たちはいつも祈る。

主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り／あなたの魂を見守ってくださるように。

あなたの出で立つのも帰るのも／主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。

詩編121:7～8

私だけが一人でどうにかしようとしているのではなく、こういうときの神頼みである。神が見守ってくださると祈ると心が落ち着きをもどす。困ったときは神頼みの園長も神は許してくれるだろう。

日毎の糧



聖書：貧しい人々にはふるまい与え／その善い業は永遠に堪える。彼の角は高く上げられて、栄光に輝く。

詩編112:9



ルターの言葉から

私たちは他に与えられるようになる前に、まず受けなればなりません。憐みの業が出来るようになる前に、まず神から憐みを受けなければなりません。

(「マルティン・ルター 日々のみことば」鍋谷堯爾編訳)

いのちのことば社)

支援をおしまない

この詩篇の注目すべきは、「律法厳守を困窮者の支援という一点に絞り込んだことである（5, 9節）困窮者に支援を惜しまない人は、いつまでもヤハウェの祝福に満たされる（申命記14:29、詩篇41:2他）こうした観念は、いつしか、人生訓としても伝えられようになった（箴言14:31, 19:17, 22:9）」①古代西アジアでは、社会的に弱い立場に立たされた人びとの保護は王の任務とされていた。最高の法典の前文は「余は孤児を富める者に引き渡さず、寡婦を強き者に引き渡さなかった」と記している。

聖書の民、イスラエル人はかつてエジプトで寄留者であり、奴隸であった弱者側にいたという歴史から社会的弱者や困窮者の保護を、民すべてに命じられた神の律法として受けとめていた。しかし、イスラエル人は自分が弱者であったから、強者になったとき、弱者、困窮者を保護するかというと逆の時が多い。だから、律法にても、礼拝の時に読まれるだろうという詩篇において、何度も、何度も弱者、困窮者を保護することを民に伝えた。今の時代だから大切なことではないだろうか。

「本詩は、このような背景を持つ社会的弱者支援に神ヤハウェの意思を看取して、これを律法の核心のひとつと受けとめた知恵の伝統に連なる作品であった。」②

引用文献：①② 詩編の思想と信仰V 月本照男 新教出版
祈り：強者が何をしてもよい世界にあって、いつまで聖書の心を心として弱者に仕えさせてください。アーメン。

甘木通信

エルサレムの王、ダビデの子、コヘレトの言葉。



コヘレトは、「エルサレムの王、ダビデの子」として語るよりも、一個人とあくまで個人の思いを書きとおした。わざわざ書く必要はないと思う。

コヘレトの言葉に権威を持たせるために、「エルサレムの王、ダビデの子」と書き加えたかもしれない。

私たちは自分に自信がなければ、自分に権威を持たせて、自分を権威付けようとする。誰しもが持つ人間の弱さである。コヘレトはそんな弱さをもった人だったと思う。

「コヘレトは言う。なんという空しさ　なんという空しさ、すべては空しい。」とこの世はそんなものであるとつづねるコヘレトの強さがあるかと思うと「知恵が深まれば悩みも深まり、知識が増せば痛みも増す。」と言って、知恵者、知識人であるコヘレトの弱さを隠そうとしない。そのありのままの自分をさらすコヘレトは羨ましい。こういう矛盾に満ちた自分を持ってあましているコヘレトが好きだ。

誰であっても矛盾に満ちた自分がいる。権威などいらないと言いながらどうしても権威を必要として、「エルサレムの王、ダビデの子」と虎の威を借りる狐のごとく振る舞い、もがく自分がいる。矛盾したそれで、良いのだと。矛盾に満ちたコヘレトを聖書に加えた先人の知恵に感動した。最初にコヘレトに出会ったとき、矛盾だらけあなたで良いよと声を聞いた。

(甘木日記)土) 甘木教会へ。主日の準備。日) 礼拝後に14年間、役員をして下さったM姉に感謝。久留米教会総会で幼稚園報告をする。教会学校に幼稚園生が出ていると報告を聞き嬉しくなる。月) 幼稚園にインフルが流行し始めて臨戦態勢。広がらないことを祈る。火) 保護者の方々が卒園の準備。もうそんな時になった。早いものだ。水) 新入園児一日体験。在園児が歓迎の体操、歌、おみやげを新入園児に渡す。可愛い。夜、インフルエンザB型の流行を落ち着かせるために明日から自由登園にする連絡をする。木) 松崎保育園の卒園写真を撮る。午後から甘木教会行く予定を変えて日善幼稚園に帰る。金) 朝の通園バスの添乗をする。自由登園を協力してくださり、ありがたい。このまま治まるこことを祈る。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) 本日は何も起きず、夕刻に甘木に向かう。電車の中は本読みながらいつの間にかこっくり、こっくり気づくと甘木駅。側溝の土が出されている。日曜日に誰かと探すと80歳を越えるE子さん。ありがたい。14年間の長きにわたり役員をしてくださったMさんに明日、色音痴の渾身の力を入れて、私から彼女に感謝の花を届けようと彼女をイメージしながらブーケを花屋さんにお願いする。まずまずかな。家内は今週の誕生日の方々の自家製のケーキを用意。今日は冷える。日) 朝は冷え、庭も凍っている。お日様が出てくるとほんのりと体も温かくなる。礼拝後、ブーケを感謝込めて、誕生日ケーキをそれぞれの人に渡す。何年と続けてきた牧師夫婦の営み。妻あっての牧師人生、生活は、これは、化石。礼拝後すぐに久留米教会へ引き返し、総会で幼稚園報告をする。教会学校に幼稚園児が出席したと聞き嬉しくなる。年少の部屋のトイレを運転手さんが改装してくださっている。みんなに支えられていることに手を合わせる。先生に病人が続く、さてどう切り抜けるか。月)



朝からインフルエンザの対応で終われるこういう (ケーキ屋さん) 日もあるだろうがいたしかたない。適切に対応するとともに通常の保育を大切にしていくことしかない。火) 自分がインフルにならないという保証はないので、次の主日の準備をする。保護者が卒園の準備をしていてくれているので、近くのケーキ屋さんにケーキ、シャークリームを買いに行く。シャークリームが絶品。水) 一日、新入園児体験、説明会で、挨拶をただけであるが、在園児が交流してくれる。午後から職員会議。今日も休みの先生もいるので、どうしても決めなければならないことだけを話す。お雛様を飾るかどうかになり、季節感は大切したいと主張して、受け入れてもらう。もしかしたらしぶしぶかもしれないが。一人、職員が熱を出し、早く帰っていただく。最後まで幼稚園に残る。帰りに不在者投票。帰宅すると職員がインフルエンザB型であることが分かり、主任、設置者と相談して、明日から2日間、自由登園にすることにした。息子に相談して指導を受けて、すぐに事務員の方に連絡をし、連絡網を使って保護者に連絡していただく。事務員に感謝。木) 松崎保育園に午前中は苦手の卒園写真を撮りに行く。写真を撮られることが苦手の私は、被写体に耐えられない顔、体つきだといつも思っている。葬儀の時の写真もいらない。午後から日善幼稚園に戻ってくる前に先生方にお疲れのドーナツを購入。金) 先生方に甘いお菓子を購入。保護者の協力、先生方、職員の協力でどうにか乗り越えられそうだ。